

8月号

第483号

いっしん

令和7年(2025年)

まごころの
限りをつくし
いそしめよ
神の心に
陰ひなたなし

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895

Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

立教166年／小倉教会布教140年／甘木親教会布教121年／加治木教会布教74年



甘木教会

祈願大祭

仕えられる

六月末に九州全域が梅雨明けし、夏空が広がる七月十七日、甘木親教会では、祈願大祭がお仕えになりました。安武道義親先生ご祭主のもと、三十五名の先生方が祭員につかれてご祭典がお仕えになりました。

ご祭典後、小倉教会の桂真津子親先生が七月十日に、小倉教会の祈願大祭でお話になられたご教話のヒナオを拝聴させていただきました。

九十三才になられる桂真津子親先生は、九州にしかない「祈願大祭」の意義について、桂松平先生のご精神を中心に熱く語られました。

安武道義親先生はご挨拶で「甘木初代は、金光大盛、お道大繁盛、恩師大繁盛のため深く尽くし疎かに退くことは致しませんと、自分のことよりも、桂親先生の願いを実現することをも思っていました。そこが大切なところだと思わせてもらいます」とお話しになりました。

甘木教会 祈願大祭… P1
『私の頂く安武松太郎師』…P2～5

お知らせ…P5
教会行事…P6

『私のいたたく安武松太郎師』

(矢野政美著 昭和五十六年十二月発行)



安武松太郎師

三、入信の動機

当時、娯楽施設のとぼしい農村にあつては、特に豊作の年など、一つの団体が主催して、「野芝居」や「映画」などをする慣わしがありました。結婚後三年目の秋、(明治三十七年、一九〇四年)村の消防組主催で、田舎廻りの「野芝居」が催され、三日間の興行は大入り満員でした。いよいよ千秋楽も終え、主催者側の慰労ということ、一日料理屋で宴会が開かれたのでした。

父(仁吉郎)は気性も強く実直な

性格でありましたが、そのときから若干遊興をするようになったようです。

そのようなことから、そのことがもととなって、その年の晩秋の頃より病魔に犯される身となりました。母は、日夜悩み、人の勧めで観世音の信心を始めました。

しかし、その験さらになく、父の病勢はとみに進み行くのみでありました。時あたかも十一月半ばのこととて、農家にとっては、いわゆる猫の手も借りたほどのいちばん多忙な時期でありました。

よそでは、すでに稲の収穫も終え、田耕し、早いところでは麦蒔きも終わっているというのに、働き手の主人が床についていては、仕事の能率も遅々として進まず、未だ稲の刈り入れすら出来ないという状態で、重態の主人を抱え、その看護と農繁期の最中に立つ若き新妻は、日夜苦悩していました。

かかる時に、我が親神様の愛のみ手は、生まれ故郷である三奈木の實家にほど近い、安武つね刀自によって下されたのです。(刀自は後に、教

師となって山口県に布教)

安武つね刀自は、「甘木の二日町に金光教といって大そうあらたかな神様がおられるから、「信心しなさい。あなたの主人の病氣は、きっとおかげ頂くから」と、熱心に導かれましたが、母は、「私は、ただ今お観音様の信心を始めております。先日もそのお講にかてて(加えての意)もらいましたから、信心は迷わぬことが大切です。そのようなキツネともタヌキとも知れぬ神様には参りませぬ」と、頑として聞き入れなかったのです。

ここにも母のこうと決めたら一心にそのことに打ち込む性格がうかがわれます。

ところが、それくらいでひるむような安武刀自ではありませんでした。なおも重ねて熱心に、再三再四お導きにをされたのです。

さすがの母も、この刀自の実意さにほだされて「それでは、安武さんの顔を立てに、いったいどんな神様か、もよう見に行ってみよう」と、ようやくその気になり、甘木教会(當時初代布教当初甘木町二日町)に、

お引き寄せを蒙ったのでした。

四、初めて安武恩師の

御取次を仰ぐ

初めてお引き寄せを蒙った母に、安武大人は、いとも懇切に、まずこの神様は真実の親神様でましますこと、愛しき氏子をみそなわすこ神慮、その親神様の悲願を受け給いて、日夜御取次くだされてある金光様のご苦労などについて、お諭しくだされた。

母は初めて聞かせていただくみ教えによって、この天地に親神様のましますこと、その尊きご神恩に胸打たれ、これまでその天地の大恩も得知らで、ご無礼の限りを尽くしてきた過ぎこし方を振り返って、ひたすらお詫びの思いで胸いっぱいになってしまいました。

母は心の中で「親神様にまします神様であれば、これから一心におすがり申し上げれば、必ずおかげにしてくださるに違いない」と、こみあげるものを感じたのでした。

安武恩師は、「主人の病気は一週間

の日を切ってお願ひしくばい」と仰せになりました。

しかし、母は「先生！それは待って下さい。今日はお願ひにお参りしたのではありません。いったいどんな神様であろうかと思つて、もう見にお参りしたのでありますから私は、ただ今み教えを頂いて、真実の親神様ということがわからせていただき、今日まで天地のご恩も知らず、ご無礼の限りを尽くしてきたことが相済まない気持ちでいっぱいでございます。そして、ご神恩が有難くもったいなく思わせていただきましたが、この有難い親神様にご信心申し上げることをお約束申し上げます、お願いだけしていただくことは、どうしてもできません。帰らせていただきますして、主人にただ今承りましたことを伝えまして、主人がそのように有り難い神様であれば、これから信心させていたから、お願い申し上げますと申しましたら、すぐに引き返してお願ひに参ります。もし、主人に信心させていたかどうかという心がありませぬ場合は、お願いには参りませぬ」と、申し上げたの

でした。

お聞きになった安武恩師は「それは面白い。そのようにしなさい」と、仰せられました。

母は恩師においとま申して、急ぎ家に帰り、病夫の枕許で今日承ったみ教えの一部始終を語り聞かせました。

静かに聞いていた父は、しみじみとした面持ちで、「そうか、天地の親神様か。そのような尊い神様であれば、わしもこれから信心させていただくから、ご苦労じゃが、もう一度お参りしてお願ひしてきてくれ」と、母に頼んだのでした。

母は大いにうれしく思い、再びとんでお広前に参り安武恩師に「主人もこれから信心させていたかと申しますから」と、病気全快のお願いを乞い奉ったのでした。

恩師は改めて「一週間の日を切つてお願い申し上げます」と、一体の御神米をお下げになり「帰って主人に頂かせなさい」と、仰せになりました。

母は御神米を押し頂き、我が家にもこの尊い天地金乃親神様をお祀り

申し上げたい一心から、当時、教会前でご神具類の店を奉仕してありました田中半平氏宅に立ち寄り、ちょうど金子の持ち合わせのないままにお室（むろ）その他ご神具の価格だけでも聞いておこうと問えば、田中氏の妻リキ女が「お金は何時でもよろしいから、お祀りさせていただきます」と、新しいお室を渡された。

母は感激して受け取り、お広前に引き返して、恩師にご神璽を奉斎していただき、ちょうど家を出るとき雨模様であったので、貧しきゆえに破れた雨傘しかなく持参していたがそれを片手に差し、片方にしっかりとご神璽を抱きお供をして帰宅し、床の間を清めてお祀りさせていただき、夫婦して「四神金光大神様、生神金光大神様、天地金乃親神様」と、み名を唱えつつ、過ぎこし今日までのご無礼をお詫び申し上げるのであります。

後日、母がその当時のことを「我が家に、天地の親神様をお祀りできる喜びで、もったいない有り難い気持ちいっぱい、神様をお供して帰らせていただいたが、破れた傘であ

ったのに、着物が少しも濡れずにおかげ頂いた」と物語っていました。

当時の貧困さと、母の心情が偲ばれる思いが致します。

翌日から母の日参が始まりました。ご結界でのみ教えを頂けば頂くほど、ただただ、もったいない恐れ多い気持ちとなってゆくのでした。

それから三日間が過ぎました。母は、当時夜盲症を患っており、夜になると、全然眼が見えなくなり、便所へ行くときも、壁を伝って手さぐりで行くほどであったのですが、はつきり見えるほどにならせていただいていることに気付きました。

母は嬉しさのあまり、飛んでお広前に参り、そのことを心から御礼申し上げました。

そのことを聞かれた安武恩師は「矢野さん、それはあんたが自分もそんな夜盲症でありながら、自分のことは忘れて、ただ『主人を助けていただきたい』というその一心を、神様がお受けになって、お願いしないあんたの方が、先におかげを頂いたのですよ」と、仰せ下されました。

やがて、恩師日切りの一週間が来

ました。

何の変化もなかった父が、その頃から頭部にポツリポツリと吹き出物ができだし、やがて頭一面に広がりました。

それが、体内の悪毒病毒のお取り払いを蒙るおかげであったのです。そして、病勢は日に日に快方に向かいました。

父も母に付き添われてお広前に参らせていただき、その時、初めて安武恩師にまみえ、数々のご理解を頂いて、深く感謝し、これまでの己の非を悟り、涙ながらにお詫び申し上げますのであります。

さらに数日が過ぎ、父は日一日と体力も付かせていただいたので、今日は神様にお願ひ申し上げて、ずっと遅れている田耕しをさせていただこうと、麦蒔き前の長い病床生活で、未だ身体がふらふらするのを、父は「四神金光大神様、生神金光大神様」と、心に念じながら、飼牛の手綱を取って野良へ出、母は鋤をかついで父の後に従ったのでした。

いよいよ、鋤を牛に曳かせ、田耕しにかからせていただいた父の身体

は、右によるめき左によるめき、まるでミミズが這うようであったとのことであります。

それをそばで見る母は、ただ一心に「金光様、金光様」と、冷や汗を流す思いでおすがりさせていただいました。

一畝を鋤き終わった頃より、身体がしゃんとなっていました。かくて、一反歩ばかりの水田を全部耕させていただくことができました。この時の夫婦の喜びは、いかばかりであったでしょうか。

ただただ「有り難うございます」と、教会の方に向かってひれ伏し、御礼申し上げたということであります。

以上が、母が初めて、わが道にご神縁を蒙らせていただき、安武恩師の厚き御取次によって、再生の喜びを得させていただいた大略であります。

時あたかも明治三十七年冬のことでありました。

(つづく)

八月のご霊神様のお立日

信國禮子之霊神	昭和20・08・03
庄村一郎之霊神	昭和19・08・04
中島シマ之霊神	昭和25・08・06
汰木絹子之霊神	平成28・08・06
西本ハナ子之霊神	平成11・08・07
平島卓也霊神	平成17・08・08
桐野日満子之霊神	令和2・08・08
中村宗吉之霊神	大正11・08・10
松田伊助之霊神	明治36・08・13
長屋善夫之霊神	平成27・08・13
岡元スミ子之霊神	平成18・08・14
大重 久之霊神	昭和41・08・18
庄村政雄之霊神	昭和13・08・21
星原隆彦之霊神	昭和55・08・22
星原阿称子之霊神	平成16・08・26
上田ハル之霊神	平成16・08・26
福元子ヨ之霊神	昭和28・08・28
小坂篤夫之霊神	昭和58・08・28
柳園ハナ之霊神	平成15・08・29
中村愛加之霊神	平成03・08・
檜原ヤオ之霊神	昭和40・08・30
向江ナツエ之霊神	平成24・08・31

ご先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよでのお働きあつての今日の私たちであります。

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。

教会では、十日の月例祭時に、ご霊前で靈祭詞が奏上され、玉串の奉てんを準備しています。

感 詠 (教会長)

ひまわり

向日葵の第一輪が咲き出しぬ

夏の恵みの到来なりき

新燃の灰降り車久々に

窓に水かけ洗い流せり

祈願祭終えて外壁工事へと

気分と身体調子切り替え



あしあと

加治木教会行事記録

7月

1 (火) ●報徳月例祭	10時半
10 (木) ●月例祭	10時半
14 (月) ●青年企画会議 (教会にて)	
17 (木) ●甘木親教会 祈願祭	
20 (日) 多良木教会 祈願祭	11時
21 (月祝) 清掃御用	10時
22 (火) ●月例祭・共励会 (土井田)	13時半
24 (木) 教師家庭婦人会 (教会にて)	
26 (土) 前日準備御用	
27 (日) 加治木教会 祈願祭	11時
31 (木) 清掃御用	10時

八月九日(土)午前八時出発
十一日(月)夜帰着

第78回

少年少女全国大会 参拝

八月十七日(日)十時半より

夏のつどい (鹿児島県)

場所：鹿児島教会
内容：「薩摩焼」陶芸絵付け体験
※くわしくは、別紙チラシを「見」下さい。



九月二十七日(土)二十八日(日)
御本部

生神金光大神御大祭 参拝

変更にご留意ください。
少年少女全国大会
参拝のため。

教会行事

8月

- 1 (金) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (土) 甘木親教会参拝
- 7 (木) 清掃御用 10時
- 8 (金) ●月例祭 (主神金光 併せて10時半)
- 9 (土) 少年少女全国大会第一日出発午前8時
- 10 (日) 少年少女全国大会第二日
- 11 (月) 少年少女全国大会 帰着
- 16 (土) 福山家霊祭
- 17 (日) 連夏のつどい (鹿児島)
- 19 (火) 20 (水) 甘木婦人教師会
- 21 (木) 清掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭 (天地金 共励会13時半)
- 24 (日) 星原家霊祭
- 25 (月) 教誨御用 (鹿児島刑務所)
- 31 (日) 清掃御用 10時

九月十四日(日)十時半より

鹿児島地方教会連合会主催
青年のひろば (鹿児島県)

場所：知覧特攻平和会館集合
内容：平和学習

※詳しくは、別紙チラシを「見」下さい。

9月

- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
- 4 (木) 5 (金)
- 9 (火) 清掃御用 10時
- 10 (水) ●月例祭 (生神金光 併せて10時半)
- 12 (金) (県)教誨師会議 15時 (西本)
- 14 (日) 連青年のひろば
- 18 (木) 19 (金) TSC 小倉教会手続
- 21 (日) 清掃御用 10時
- 22 (月) ●月例祭 (天地金)
- 23 (祝火) ●秋季霊祭 10時半
- 27 (土) 28 (日) 御本部御大祭参拝

鹿児島県鹿児島地方教会連合会主催
青年のひろば

令和7年9月14日(日)
10:30~14:30
(10:20玄関前集合)

平和と戦争について考えよう

場所：知覧特攻平和会館

対象：若者(高校生以上)

参加費：無料(昼食支給)

持ってくる物：筆記具

プログラム

10:30	開会式・入場
11:00	語り部講話(祝職室)
12:00	昼食
12:40	研修(文化会館研修室)
13:50	閉会式

参加申込：9月8日までに教会で参加者をとりまとめ、連合会LINE or 加治木教会 矢野までご連絡ください。
電話・FAX：0995-62-2895
E-mail：hittobe.konkaji@gmail.com